

● 部落公民館に気がるに利用できる図書館を作ってほしい。

これらのほかにも、いろいろな希望やねがいがあります。村では、年次計画をたてて、1つ1つ解決して行くことに努めて^{つと}います。村内のあちこちで、道路工事や水道工事がおこなわれています。工事のじやまになったりしないように、おたがいが注意し合って、明るい村づくりに協力しましょう。(昭和56年1月号広報ひがしより引用)

4. 郷土をひらいた人びと

わたしたちの住んでいる東村は、どのように発展してきたのでしょうか。また、これからどのように発展するのでしょうか。

(1) 土地をひらいた人びと

ここでは太平洋戦争後、開拓した代表的な上野出島^{かけ}蔭^{たく}の原の開拓のようすについて調べてみましょう。

①開拓^{たく}のようす

開拓に入った人びとは27戸で、昭和23年～24年にかけて、新しい土地をもとめて農業に入った人たちでした。

そのころの蔭の原は、一面雑木林や松・杉林で、ひとかかえよりも大きな木の根をほりおこしながら、土地をきり開きました。

今のように、ブルドーザーなどの機械もなく、すべて人の力で行い、^{とう}唐ぐわで、1くわ1くわ根気づよく木の根をほりおこして、きりひらいていきました。1日一生けんめいほりおこしても1アールくらいしかできませんでした。秋の収かくが終っても、雨や雪の日以外は、毎日土地

